

## 東京農工大学のグローバル化と次期中期計画



理事（広報・国際担当）・副学長 堤 正臣

本学は、“世界の平和と社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進する”ことを基本理念とし、これを『**使命志向型教育研究—美しい地球持続のための全学的努力**』（**MORE SENSE**）と標榜して教育・研究に取り組んでいます。

第2期中期目標では、学長ビジョンとして“研究大学としての地位の確立”を掲げ、次の平成28年度から始まる第3期中期目標では、本学は“世界が認知する大学”を目指すこととしています。

私が理事・副学長に就任した一昨年の4月以来、本学のグローバル化戦略について、農学研究院・工学研究院の教授会でその内容を説明するとともに、国際交流委員会を通して議論を進めてきました。その中で、本学のグローバル化は、“農学、工学及びその融合分野において、**地球規模で活躍できる研究者・技術者を輩出する大学を創成**”することを目的として推進することでほぼまとまろうとしているところです。

その一方で、昨年来、第3期中期計画・中期目標の議論が進められています。その内容を見るとグローバル化に関わる項目が多数掲げられており、多面的にグローバル化を推進することが喫緊の課題になっていることがわかります。この中期計画に記載された内容は、本学の今後の方向を決定付けるもので、極めて重要なものになります。

今年の6月までその内容の修正等が行われる可能性はありますが、大きく変わることはないと思います。そこで、この誌面を借りてグローバル化に関わる項目の概要を簡単に紹介することにします。

まず、教育に関する計画・目標では、学士課程においては、フィールド学習やインターシップなどを含む国際通用性をもつカリキュラムに基づき、幅広い教養とともに専門的かつ最先端の知見を能動的に学習できる教育を実施し、共通教育を見直し、教養豊かで国際社会に貢献できる実践型グローバル人材を養成します。同時に学年暦を見直し、フレキシブルな4学期制に移行します。

また、大学院課程においては、国際通用性をもつカリキュラムをもとに高度な教育と研究指導を行い、国際社会で指導的な役割を担うことのできる対話力と高い研究能力とを備えた、日本の産業界を世界に牽引し得るグローバル高度専門職業人材を養成します。

さらに、学士課程及び大学院課程において英語だけで学位取得可能なコースを拡充して、日本人学生のグローバル化を推進し、かつ、海外からの留学生受入れを促進します。入試に当たっては、バカロレアを活用した学士課程入学者選抜制度の導入、大学院課程入試制度の整備を行い、優秀な外国人留学生を確保して、第3期中期計画の終わりまでに全学生に占める留学生の割合の倍増、日本人学生の留学等経験者の割合の大幅増を実現します。

研究に関する計画・目標では、農学、工学及びその融合領域において、世界に競える先端研究力の強化に努め、我国の産業力強化に資する先進的かつ実践的研究を推進します。また、それぞれの研究分野で評価の高い学術雑誌への国際共著論文の投稿を奨励し、研究大学としての世界地位向上を目指します。さらに、外国人教員の採用、教職員の海外派遣等による国際的な人材交流及び共同研究・研究交流を推進し、各部局の教員採用計画において、外国人教員及び女性教員の採用目標値を設定します。

以上のような中期目標を達成し、本学のグローバル化が実現することを願っております。



## 目 次

- 巻頭言 堤 正臣 理事（広報・国際担当）副学長・国際センター長
  
- 特集 「農工大のグローバル化への取り組み」
  - ・ 「国際センターの 20 年の歩みとこれからの役割」  
馬場 眞知子（国際センター）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - ・ 「世界展開力強化事業 AIMS プログラムを通じた交換留学制度構築  
―東京農工大学農学部における展開―」  
二ノ宮リムさち（国際センター）・加藤 亮（農学研究院）・・・・・・・・・・ 6
  - ・ 「グローバル社会で求められる素養（グローバルコンピテンシー）を育成する工学部  
AIMS『派遣』プログラムの試みについて」  
越智 貴子（工学部 AIMS プログラムコーディネーター）・・・・・・・・・・ 16
  - ・ 「SRI 研修の参加学生への学習効果―研修 10 か月後の受講生インタビュー調査からの考察―」  
藤井 恒人（大学教育センター）、石井 一夫、清水 美希、一條 洋子、内藤 梨沙（農学府）  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
  
- 論文・報告
  - ・ 「京都工芸繊維大学におけるスーパーグローバル大学事業の取組」  
森本 一成（京都工芸繊維大学副学長）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
  - ・ 「科学英語の学習法の提案」  
原 宏（東京農工大学名誉教授）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
  - ・ 「技術経営教育における実践的演習の取り組み」  
板谷 和彦（工学府産業技術専攻）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
  - ・ 「社会人向け研究マネジメント人材養成プログラムについて」  
伊藤 伸（工学府産業技術専攻）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
  - ・ 「ベンチャービジネスラボラトリー電子顕微鏡室の利用状況報告」  
牧 禎（学術研究支援総合センター/日本電子株式会社）・・・・・・・・・・ 58
  
- センター活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

○ センター専任教員活動報告	69
○ センター運営委員会議題	79
○ 編集方針・投稿規程・教育データの取り扱いに関する指針	87